かわら版　事務所通信　VOL-183（2025/05）
編集責任者：佐藤寿志　0100

税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。インターネットの普及と候補者の質の低下で選挙制度が歪んでいます。

「暑くて困っちゃうわ～♪」と政見放送中に突然、服を脱ぎだし、胸元もあらわなチューブトップ姿になった女性がいました。昨年7月の東京都知事選に立候補した内野愛里氏です。政見放送では自分の名前を繰り返し連呼するばかりで政策は一切語りません‥。

内野氏の目的は、都内で自身が経営するバーの宣伝を行う事です。過去の政見放送で悪ふざけのような行動をする候補者を思いだし「私も変わった行動をすると注目を集められるかも」と出馬したそうです。都知事選の直前、政治団体「カワイイ私の政見放送を見てね」を設立し知事選で落選、現在は海外からもお客が来るほどお店は繁盛しているようです‥。

嘘でもOKのYouTuber業、売名目的の選挙への出馬、闇バイト等々お金儲けのためなら何でもありの時代になりつつあります‥。

困った人間と賢いAI

恥を知らない人が増えている一方、AI 技術は急速に発達しています。話題のチャットGPT に「ビジネスとは」と質問したところ以下のような回答がありました。

ビジネスは、根本的には「問題解決」の活動と捉えることができます。具体的には、顧客や市場が抱えるニーズや課題を理解し、それに対して商品やサービスを提供することで、その問題を解決し、価値を創出します。

例えば、日常生活の中で不便を感じていることや、特定の課題を解決したいという要望に応える形でビジネスは成り立ちます。こうした視点から見ると、ビジネスは単なる利益追求だけでなく、「社会や個人の問題を解決する手段」とも言えます。

AI 恐るべし、当然ですが私の頭の中よりも整理された立派な回答です。しかし、映画ではAIの暴走で人類が危機に直面するといった題材がよくありますよね‥。

一方、冒頭紹介した記事（4月28日、読売新聞）は「公職選挙法に処罰規定がない」ため候補者が広告塔となり、政見放送を売名やビジネスに悪用する動きが広がる。このまま放置していれば、民主主義の根幹である選挙制度の信頼がゆらぐと警鐘を鳴らす記事です。AIの映画とは違い、人間が暴走しています‥。

仕事には人が不可欠

AI がどんなに進化したとしても多くの職場では人間（社員）がいなければ「儲けを生み出す」事は出来ません。しかも、AIはプログラムで合理的に動きますが、人間には感情という摩訶不思議な思考プログラムで動く事が多々あります。その一方、人間は「目的」を正しく理解するとその業務命令を実直に実行する側面も持っているのです。

佐藤寿志税理士事務所　006-0023　札幌市手稲区手稲本町３条１丁目１番１号
TEL（011）699-5925

では、どうしたら社員に正しく目指す目的を伝える事ができるでしょうか？

今月は「『わかる』から『動ける』まで　言葉の解像度を上げる（浅田すぐる著、プレジデント社）」をテキストに人に目的の意図が伝わる秘訣を学んで行きましょう。

言葉の解像度を上げる

筆者によると、上司は「言葉の取り扱い」に注意するようにと言います。特に「言葉の解像度」を上げて人に説明・指示するようにしなければ部下に伝わらないと記しています。

例えば、部下に「当事者意識をもって（非常に曖昧な言葉です）」と言った場合、間違いなく「ハ、ハイ・・わかりました・・（汗）」との答えが返ってくるはずです。

しかし、言われた本人はその言葉の意味・目的を理解せず（する気もなく）「ハ、ハイ・・」といって終わらせます。

結局、その意味の意図は伝わっていないのです。筆者が言う「言葉の解像度」を上げるとはどう言うことでしょうか。

筆者によると「当事者意識をもって」の答えは「担当業務に関心をもって、やるべきことを放置せず、最後までやり抜く」事です。さらに、もしわからない事があれば、上司に相談したり、先輩にアドバイスを求めなさいと具体的に指示するのです。

言葉の解像度を上げられない上司は「部下が何故できないのか、なぜ失敗するのか、部下の脳内・心の中で何が起こっているか」が理解できていないのです。つまり、部下へ伝える「言葉の取り扱い」が間違っているのです。皆さんも、日頃何気なく使っている言葉を今一度熟慮して見ませんか！？。

人間の質の変化

筆者はトヨタ自動車で仕事を学び社会人教育の専門家としての長年活躍されています。その筆者が「言葉の解像度を上げて説明しないとまったく動くことが出来ない、もっと言うと、動く気になってくれず、頑なに行動しようとしない」人が増えたと感じているようです。

動けない（というより、そもそも動く気がない）部下を見て、「そのくらい自分で考えろ」、「そこまで面倒みれるか」等々、一蹴したくなる気持ちは、筆者もわかると言います。

私たちは、なかなか優秀な人材に出会うことが少ない中小企業の経営者です。だからこそ、せっかく一緒に働いている社員さんにどうしたら「目的の意図」が伝わるかを今後の課題として考えて見てはいかがでしょうか・・。

反対者には反対者の論理がある。
それを聞かないうちに、いきなりけしからん奴だと怒ってもはじまらない。
問題の本質的な解決には結びつかない。　（渋沢栄一）

編集後記：

私事で恐縮なのですが、総世帯数 9000 ほどの町内会活動に昨年から携わっています。人の考えは十人十色、生活のため町内会費を下げて欲しい人がいる一方、町内会費で飲み食い・旅行をしたい人、自身に係るお祝い（長寿・入学）を貰いたい人、自身は活動を手伝わないが、自分のためには町内会が行動して欲しい人等々、民主主義（多数決）の最前線での賛否の戦いはいつの時代にもあるのでしょう・・（寿）。

佐藤寿志税理士事務所　006-0023　札幌市手稲区手稲本町３条１丁目１番１号　TEL(011)699-5925